



スマートフォンで
広報たじまを
持ち歩き！

編集発行 多治見市役所 企画部 秘書広報課
〒07-8703 岐阜県多治見市日ノ出町21丁目15番地 ☎0572(22)1111
FAX 0572(24)3679 ☒ niyoko@city.tajimi.lg.jp
http://www.city.tajimi.lg.jp/ [Eメール版]http://www.city.tajimi.lg.jp/mobile



多治見市緊急メールに登録してください
携帯電話に緊急情報を送ります
https://services.sugumail.com/tajimi

制作を始めるまで

兵庫県西宮市出身。幼少より、工夫し、考え、何かを作ることが好きな子どもでした。洋裁を学んだ母の影響を受け、自分で考えながら縫うことや、デザインし作ってもらうことは日常的なことでした。住宅メーカーに勤務後、縁あってギャラリーの店長に。その後、ものを作ることを諦められず、窯業訓練校で勉強しましたが、やはり好きな布を選びました。

「百草サロン」

結婚して、集合住宅の都会の生活から、母屋と離れのある嫁ぎ先で義父母と同居し、自営業を手伝うことになりました。生活環境が変わる中で、これから着ていきたい服、心地よい衣生活とは何かを考えるようになり、流行の服を次々消費していくよう

な衣生活ではなく、年齢を重ねても好きな服をずっと着ていける衣生活でした。一方、小幅の布地を用い、布そのものを身体に沿わせる衣服づくりを探っていたところ、集めていた内外の古い布の中で東南アジアの民族衣



衣服作家、百草主宰
あんどう あきこ
安藤 明子さん(東栄町)

装である「サロン」に出会いました。そして、好きで着ていた着物の精神や着心地に学び、試行錯誤を繰り返した結果、フリーサイズで、着る人が自由な組み合わせを楽しむことができ、現代の生活になじむ様式を完

成させました。創作活動というより、生活の中で必要性を感じて作っていたら、結果的に自分の感性を吹き込んだ作品になったと言えます。こうして生まれたのが「百草サロン」です。

時には甘え 感謝すること

長女が3歳、長男が生まれた年に、夫とともにギャルリ百草を始めました。夫の両親や姉一家の協力がなければ、とても

ここまでやつて来られませんでした。子どもの面倒を喜んでみてくれる周囲に恵まれて本当に私たちは幸せでした。世代も違いますが、愛情からして違って、愛情からしてくれることですので気になりませんでした。また親の方針と違う社会を見せることはとても大事なことでだと思えます。

私たちがしてきたことがベストだとは思いませんが、仕事と子育てを両立するためには、時に周りに甘え「ありがたい」という感謝の気持ちを持つことが大切だと思えます。

今は何でも手軽に手に入りますが、結局最後はゴミになってしまうものが多いです。衣・食・住の全てにおいて、正しい動機を持ち、最後まで使いつなぐ、または使い切ることでできるものを作り、紹介することを、これからも目標にしたいと思います。



ひと 輝く女性

本連載では、市内の事業所や地域など、さまざまな分野で活躍する女性のインタビューを掲載します

人口と世帯数の動き

平成29年1月1日現在

総人口

112,767人 (前月比 +42人)

男 54,912人 (前月比 +30人)

女 57,855人 (前月比 +12人)

世帯数

45,778世帯 (前月比 +62世帯)



200円バスでどこ行こう



平安台バス停からまちなかへ散歩

駅前バス乗り場から東鉄バスホワイトタウン線に乗り「平安台」で下車。バス停横の遊歩道入り口からは御嶽山、笠置山、恵那山などの山々を見ることができ

ます。遊歩道を下ると山の中を散策でき、国道248号に合流。約25分で「多治見市民病院前」バス停(東鉄バス・ききょうバス)に到着します。途中のカフェでランチしながら散歩をしてみたいかたがです。

多治見市内 平日10時から16時 1乗車200円の東鉄バスで!